



未来へつなぐ

Vol.
182

文／本間 吾里砂

二〇二五年三月十五日のダイヤ改正で特急列車の速達化を実現！
ご利用の多い時間帯への運転見直しなど、ニーズに応じた改正を実施

一部特急で所要時間短縮 札幌―函館間も速達化

JR北海道は、二〇二五年三月十五日に二部の特急列車で所要時間の短縮を図るなど、お客様の利便性向上を目指したダイヤ改正を実施します。札幌―釧路間を運行する特急「おおぞら7号」において

は、追分、新夕張、池田、白糠しらぬか駅の四駅を通過することで、札幌―帯広間を二時間二十二分、札幌―釧路間を三時間五十四分へ。それぞれ二十五分、三十二分間短縮され、同区間の



261系特急おおぞら

最速達列車となります。これに伴い、特急「おおぞら5号」の停車駅に追分、新夕張駅を新たに加えます。また、函館行き特急「北斗2号」は、伊達紋別、大沼公園、五稜郭駅を通過。所要時間は、札幌―函館間が現行より四分短い三時間二十九分となり、最速達列車として運行します。

このほか、ご利用の少ない日に運転を取りやめている旭川―網走間の特急「大雪」を毎日運転する特別快速「大雪」へ変更。同列車はH100形二両の運転となり、すべて自由席、特急料金は不要です。H100形は、二〇二五年度以降、長距離移動の快適性向上のため、座席数の増加と座り心地の改善を図っていきます。また旭川―北見間の特別快速「きたみ」を快速「きたみ」とし、網走駅まで延長するとともに北見―網走間を各駅停車とし

ます。札幌―網走間の特急「オホーツク」もよりご利用しやすい時間帯へ発車時刻の見直しを行います。札幌―旭川間では早朝の「ライラック2号」、夜間の「カムイ47号」を取りやめ、それぞれご利用が多くなる夕方と夜間に列車を新規設定。これにより、利便性向上を図ります。

石勝線の普通列車に H100形を投入

普通列車については、石勝線の千歳―新夕張間のキハ40・



H100形

150形十二本をすべてH100形に置き換え、現行より最大十二分の速達化を実現します。H100形は、各駅でお客様がボタンを押してドアを開閉し、乗り降りするシステムで、車両の冷房化や低床化に加え、車いすスペースや車いす対応洋式トイレが設置されており、快適に利用できる構造が特徴です。観光利用が増加している富良野線では、日中時間帯を中心に計八本の普通列車を二両から二両編成に変更。一方、利用状況に合わせて夜間の一部列車の運行を取りやめます。

今回廃止する駅は、根室線の東滝川駅、花咲線の東根室駅、宗谷線の雄信内駅、南幌のほろ駅、抜海駅ぬかの五駅。なお、二〇二五年四月より釧路線の緑駅は自治体が維持管理する駅へと移行します。